短期予報解説資料　２０２６年９月２７日０３時４０分発表

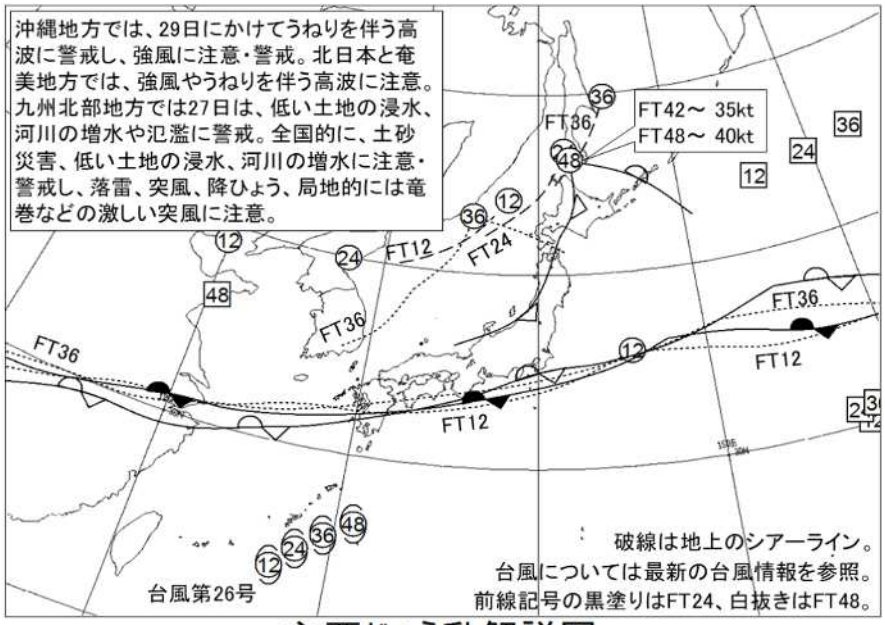
気象庁

１．実況上の着目点

① 発達中の台風第26号が、暴風域を伴い沖縄の南をゆっくり北上。沖縄の南で非常に激しい雨を解析。

② 前線が、西日本や伊豆諸島付近にほとんど停滞し、前線の近傍では雷を多数検知。上層の正渦度移流に伴い強雨域が東進しており、九州北部地方で非常に激しい雨を観測し、東海道沖で激しい雨を解析。

③ 500hPa 5640m付近のトラフ対応の低気圧が沿海州付近を東進。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は、29日にかけて沖縄の南から日本の南を北東へ進み、強い勢力で南西諸島に接近する。このため、非常に強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなり大しけとなる所がある。沖縄地方では29日にかけて高波に警戒し、強風に注意・警戒。奄美地方では、高波に注意・警戒し、強風に注意。

② 1項②の前線は、29日にかけてほとんど停滞する。また、上層の正渦度移流に伴い断続的に降水が強まる所があることや、これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所では普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。

③ 1項③の低気圧は、28日にかけて日本海を通ってサハリン付近に進み、シアーラインが北海道地方に接近する。また、後続の上層トラフに対応する低気圧が28～29日は日本海から宗谷海峡付近を通ってオホーツク海に進み、前線が北～東日本を通過する。低気圧や前線の影響で、強い風が吹いて波が高くなる所がある。北日本では28～29日は、強風や高波に注意。

④ 2項①の台風周辺の下層暖湿気、2項②の前線に向かう下層暖湿気、2項③の低気圧やシアーライン及び前線に向かう下層暖湿気と上層寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。九州北部地方では27日は、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。伊豆諸島では27日は、北海道地方と九州北部地方では28日にかけて、沖縄地方では28日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。全国的に、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の台風第26号の位置や勢力の予想には不確実性があることに留意。

４．防災関連事項［量的予報等］　①雨量(06 時からの 24 時間)：多い所(100mm 以上)はない。

②波浪(明日まで)：沖縄 7、奄美 4、北海道 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　「台風第 26 号」を 5 時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。